

八王子市を有機農業の先駆市に

—環境にも、健康にもやさしい持続可能なまちへ—

Turning Hachioji City into Pioneer of Organic Farming -Towards an Environment-friendly and Healthy Sustainable City-

グループ名：生命育（いのちいく）

山口博美 石井愛 安江正美 光澤麻莉子 市川正和 海塩さやか 金澤若夏

指導教員 中山雅司

創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：地産地消，有機給食，環境教育，生命育，SDGs

1. はじめに

近年、有機農業や農作物が国際的に注目されている。有機農業¹は、土壌環境や生態系を守るという環境保全に貢献すると共に、人間にとっても農薬や化学物質の摂取が減るため健康につながる。日本においては、2050年までに全耕地面積に占める有機農業の割合を25%に引き上げる目標を掲げる「みどりの食料システム戦略」（農林水産省 2021）を発表し、有機農業の拡大に力を入れている。

八王子市では都内1位の農業生産高を誇り（広報はちおうじ 2014）、野菜や果物など様々な農産物が生産され都市農業の発展に貢献しているが、有機農業が一向に進んでいないことが課題である。そこで、農業が盛んな八王子市で有機農業を推し進めることで、環境にも健康にも優しい持続可能なまちを実現することをビジョンとして掲げる。これを達成するために、八王子市内の小中学校で有機農産物を使用した学校給食と「生命育（いのちいく）」を提案する。

2. 現状分析

(1) 八王子市の有機農業

八王子市では有機農業が促進されていない。市の現状を調査するため、八王子市農林課へのインタビューを行った。このインタビューから、国の政策より比較的有機農業に対して消極的な印象を受けた。そこで、八王子市

において有機農業の推進を阻んでいる要因を2つ特定した。

①有機農産物の需要が低いこと。有機農産物は、農薬を使用しないことで安全性と栄養価が高い一方、生産にコストや手間がかかることから価格が高くなり、需要が低い。また、市民間における有機農産物の利点への理解が先進国よりも低いのである。

②有機農産物の生産に対する制度や支援が整っていないこと。有機農業は生産過程の虫食いや販売所が限られているなどの生産リスクがある。このようなリスクを減らす対策を行うために費用がかかる。そのため、市が有機農家に寄り添い有機農産物を生産しやすい環境づくりを行う支援が重要になってくるのである。八王子市における有機農業の発展に、八王子市が市民の意識変革を行い有機農産物の需要を高めると同時に、農家の方々の生活の不安を取り除くことが優先課題であると考えた。

(2) 八王子市の食育と学校給食

八王子市は現在、第三期八王子食育推進期間と定め「食を大切に作る人々を育むまち」の実現のために全世代の市民に対して食育活動を行っている。しかし、図1で示すように、八王子市の『食育』や『食』への関心についての質問では、中高校生は「地産地消」や「自然の恩恵や食に対する感謝の気持ちについて」等の項目は6%未満の

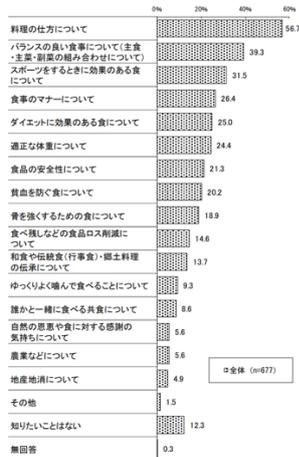
¹ 有機農業とは「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われ

る農業」と定義されている。（農林水産省 n.d.）

回答である。このことから農産物の流通についての知識や環境保全の視点が乏しいことが考えられる。

図1 『食育』や『食』に関することで知りたいこと

(出典：八王子市)



学校給食について、八王子市は給食の提供では、地元の食材を使用した「地産地消」を推進しており、地場産物の使用率は、2009年度の4.5%から2020年度の28.3%に上がった(農林水産省 2021)。地場産物を学校給食に提供することは推進されているが、有機農産物の利用を進める動きはあまり見られない。

韓国の事例を見ると、2021年からソウル市の全小中高校で「オーガニック無償給食」を施行し、来年から市は高校の有機食材を使用する割合も現在の30%から70%まで引き上げる。このように、学校給食は有機農産物の安定供給先の機能として高まっている。

3. 提案

八王子市で有機農業を推進させるために以下2点を市に提案する。

①小中学校の給食に有機農産物を導入。数は長期的で安定した販路と利益の獲得で増加が期待できる。

②動画を用いた「生命育」²。これを小中学生の生徒だけでなく保護者にも動画を通して、給食に有機農産物が環境や健康に優しいことを知ってもらい、有機農産物の需要を高めることができる。この生命育は学校や八王子市など様々なアクターが連携して進めていく。

4. 提案によってもたらされる効果

以上の提案を実施することで、有機農産物を促進させるための環境が八王子市でより整備されることにつなが

る。それにより、主に3つの効果が期待される。

①学校現場における食育・環境教育の実践

八王子市にとって教育の質の向上を図ることは極めて価値がある。特に給食で栄養バランスの取れた安全な食事を提供することは、成長期の児童や生徒の健康な発達と生涯における健康意識の向上を図る食育、そして環境教育としての「生命育」の重要な機会になる。

②八王子市における有機農業の拡大

有機農業では農薬の使用を控えることから環境への負荷を最小限にすることができ、八王子市の豊かな自然環境と生物多様性の保全につながる。さらには、地元産の食材を活用することで、輸送時に伴う温室効果ガス排出を削減することが期待される。

八王子市は農業生産高が都内1位である。そのため、農業分野において、持続可能な都市農業経営のモデルとしての役割を果たすことは非常に重要である。

③市民の健康増進

有機給食を導入することにより、八王子市で有機農業が促進され、市場に有機野菜が広まる。それにより、多くの八王子市民が有機農産物を購入できる機会が増え、それらを食べることで、農薬や化学物質の摂取を最小限にすることができる。食品の高い安全性は市民の健康向上に寄与する。

参考文献

広報はちおうじ(2014)「HACHIOJI 特集 八王子の農業」11月号. No.1294. 2頁.

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/contents/kouhou/006/p003431_d/fil/koho140101.pdf (閲覧日2023年10月7日)

農林水産省(n.d.)「有機農業とは」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki> (閲覧日2023年10月11日)

農林水産省(2021)「地場産物を活用した食育の事例」37頁.https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/johoteiky/at_tach/pdf/index-7.pdf (閲覧日2023年10月22日)

農林水産省(2022)「有機農業をめぐる事情」2-3頁.<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/attach/pdf/meguji-full.pdf> (閲覧日2023年10月7日)

² 生命育とは「食育」から派生した造語であり「地球上にある生命一つ

ひとつを尊重し、それらとの共生の意識を養うこと」と定義する。